

スポーツライフへの関心と共生社会の実現に向けた意欲を高めるオリパラ教育の実践
～オリンピックによる講演・パラスポーツ体験から学ぶ～

学校名 防府市立玉祖小学校（山口県）4・5・6年
全校児童数 272名（男子151名 女子121名）
(本実践に係る問合せ先)
電話番号 0835(22)1613
学校メールアドレス tamano-e@able.ne.jp

1 実践（研究）のねらい

- (1) パラスポーツを含む運動体験を通じて、スポーツへの関心・意欲を高めるとともに、選手が個々の思いや、自身の特性に応じながら豊かなスポーツライフを送っていることを知る。
- (2) パラリンピックについての学習を通じて、子どもたちが国際理解や多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを理解する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 「I'm POSSIBLE」を活用した授業実践（共生社会の実現に向けた意欲を高める）

事前学習として、「I'm POSSIBLE（東京2020教育プログラム）」を活用した授業実践を4年生以上の学級で行い、オリパラ（とりわけパラリンピック）に関する理解を深める学習の場を設定した。内容としては、当該教材に収録されている3つのテーマ（「パラリンピックの価値」（障害理解）、「パラリンピックスポーツ」（選手のキャッチコピーづくり）、「東京2020スペシャル」（クイズづくり））から各学年の実態に合わせて領域を選択して実践を行った。

<4年> 「パラリンピアンを応援しよう」（パラリンピックスポーツ）

<5年> 「パラリンピアンが学校に来るとしたら」（パラリンピックの価値）

<6年> 「パラリンピックについて知ろう」（パラリンピックの価値）

2 パラスポーツ体験を中心とした運動体験学習（スポーツライフへの関心を高める）

運動体験学習として、4年「ボッチャ」、5年「フェンシング」（講演と体験）、6年「車いすバドミントン」を実施した。「ボッチャ」は山口県レクリエーション協会に講師派遣を依頼し体験活動を行った。「フェンシング」は、オリンピックである千田健太選手を講師として招聘し、講演会を行った。「車いすバドミントン」については、NPO法人スマイルクラブより江上陽子選手を招聘し、講演及び体験活動を行った。

○成果の意義

- 当初はパラリンピックについても知識はあまりなく、障害者の方に対して、悲観的な印象をもっていた児童もいたが、授業を通して考え方が変わった児童もいた。パラリンピアン競技に取り組む姿勢を観て、「自分も何かにチャレンジしたい。」とインスピレーションを受けていた。
- 普段は体験する機会が少ないパラスポーツの概要や、オリンピックに出場するまでの選手の努力や支えてくれた人々への感謝の気持ち等を知ることにより、オリパラへの関心も高まっていた。

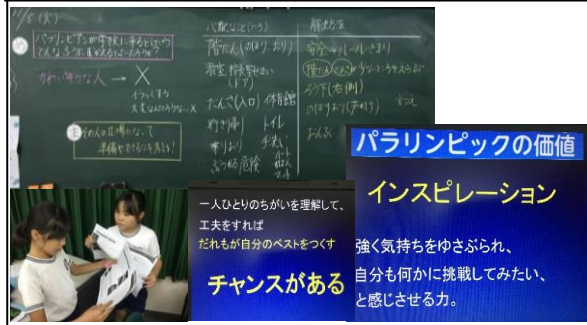
○今後の課題

パラスポーツ体験やオリンピックによる講演は、児童にとって新たな発見を与えたり、心を動かしたりするものであった。次年度に開催される東京オリンピック・パラリンピックの期間中だけでなく、様々な場面で体験した活動を思い出したり、振り返ったりする機会を設けることが重要である。

○ 研究内容

【「I' m POSSIBLE」を活用した授業実践】

各学年の実態に応じパラリンピックの学習をした。



【4年「ボッチャ」体験学習】

協会の方の指導のもと、「ボッチャ」を体験した。



【5年「オリンピックによる講演会】

千田健太選手によるフェンシングの講演を聞いた。



【6年「車いすバドミントン」体験】

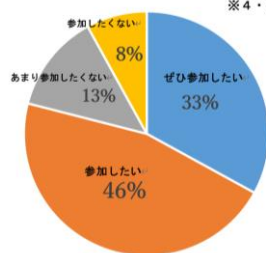
江上陽子選手の指導で「車いすバドミントン」を体験した。



【「オリンピック・パラリンピック」・「共生社会」についてのアンケート結果（4・5・6年対象：一部項目抜粋）】

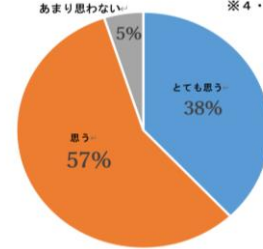
学習後に4・5・6年児童を対象にオリパラ活動や共生社会についてアンケートを行った。

これから行われる、オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思います ※4・5・6年153名対象



※約80%の児童が、今後のオリパライベントに参加したいと回答している。

社会や人のために役に立つことをしたいと思いますか。 ※4・5・6年153名対象



※95%の児童が、社会や人の役に立ちたいと考えることができた。

【今後の取組について】

～本年度以降の本校の取組の方向性、内容について～

・本校では本年度、パラリンピックについての学習に重点を置き実践を行ってきた。特に、「I' m POSSIBLE」の授業実践において各学年が視聴したパラリンピックのダイジェスト映像は多くの児童に感動を与え、心に響くものであった。東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、児童の中でもオリパラに対する関心が高まる時期だからこそ、本年度取組を継続させていくべきだと考えている。本年度は2学期から取り組み始めた実践であるが、年間を通じた教育活動について協議、計画を進めていくことも検討中である。